

目的：鎌倉市は街路樹の植栽マス手入れを市民参加で行っているということで街路樹見学と市民参加の仕組みづくりを学ぶため、愛護会という街路樹ボランティアが活動している鎌倉市役所を訪問した。

内容：先に鎌倉駅から鶴岡八幡宮までの若宮大路を中心に街路樹ウォッチングを行った。



花苗はきれいだが、植えマスは盛り土して間伐材や石で仕切られており、街路樹の根に影響はないのだろうか。



大通りは立派なマツやイチョウの街路樹。石や竹で囲まれている植えマスもあり街に合った和風のイメージで良い感じだった。

見学後、都市整備部公園課を訪問した。鎌倉市は、緑を保全し、緑地を増やすという目的で、独立した植栽マスを連続マスにするなど努力している。しかし予算の削減でその分、草刈等の回数を減らしている。そのため住民からの苦情が絶えないなど困った点も多かった。

街路樹愛護会の設立は、「市民との協働」「緑の保全の啓発」「住民からの苦情の増加」などの理由で行政が提案した。参加団体は自治会中心なので地域のコミュニティ形成に役立っている。報償金については一般会計から支出。24年度は、22団体に140万円、活動、広さに応じて後払いしている。設立の成果は、街路樹に関する通報、花苗の植え替え等、緑に関心が増え、地域のコミュニケーションも増えている。但し、任せっぱなしではなく行政が少しリードしてあげることも大切ということだった。

また、接道部に生け垣などで緑化する方に経費の半分を補助している「まち並みのみどりの奨励事業」のお話も伺うことができた。

成果：千葉市でも植栽マス管理が行われている地域もあるが、市民参加の仕組みづくりが必要と感じた。また生け垣についても緑化と防災の両方の面で有効な施策と考える。